

平成 2 4 年度安城市環境審議会 議事要旨

日 時	平成 2 4 年 1 0 月 2 3 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで	
場 所	安城市役所西会館 2 階第 3 5 会議室	
出席者	委 員	鳥居保会長、近藤克己副会長、飯尾歩委員、永田秀和委員、杉山時雄委員、神谷輝幸委員、中西満委員、山田茂範委員、片桐徹委員、小山博敬委員、武井修一委員、石川佳寿子委員、杉浦ひろ子委員、中島英雄委員
	事務局	新井副市長、環境部長、環境首都推進課長、土木課長、都市計画課長、農務課長、環境保全課長、ごみ減量推進室長、環境政策係長、環境首都推進課職員
次 第	1 会長あいさつ 2 議事 （1）環境施策の平成 2 3 年度の実施状況と平成 2 4 年度以降の予定について	

1 会長あいさつ

足元の悪いなか、お集まりいただきありがとうございました。それぞれの分野の専門の方々ばかりですので、活発な意見をよろしくお願いします。

2 議事

（1）環境施策の平成 2 3 年度の実施状況と平成 2 4 年度以降の予定について

（環境首都推進課説明）

- ・環境基本計画の概要（計画期間、施策体系）
- ・環境報告書の構成
- ・環境施策の説明

セミのぬけがら調査、うちエコ診断事業、節電キャンペーン、太陽光・太陽熱利用機器補助金制度、エコセンターあんじょう、エコネットあんじょうとの協働、環境アドバイザー制度、秋葉いこいの広場環境学習センター、エコライフフェアの開催

【杉山時雄委員】

報告書 17 ページで多様な生態系の保全とあるが、セミのぬけがら調査は、保全からかけ離れているのではないかと。矢作川にはよい環境が残されているが、その保全について何も触れられていない。

【環境首都推進課長】

セミのぬけがら調査だけで、多様な生態系の保全が図られるわけではありません。セミのぬけがらの数は、あくまで一つ指標と考えております。その他の分野についても、取り組んでいかなければならないと考えております。

【神谷輝幸委員】

報告書 12 ページに環境指標 1 として、樹高が 3 m 以上になる木の本数があるが、設定した根拠は何ですか。例えば、樹木は酸素供給をするものですが、安城市の人口から必要な酸素を計算してこの指標を決めているのか。そのほか、科学的な根拠に基づいて決めているのか。

【環境首都推進課職員】

この指標は、緑化を推進している公園緑地課が、過去に市内の樹高が 3 m 以上の高木の数を調査した結果があり、それをベースとして決めたものです。科学的な根拠はありません。

【中島英雄委員】

家庭用の太陽光発電システムに対し補助金を出していただいている。平成 23 年度は 9 校の学校にシステムを設置されている。市民に対して、こうした取り組みにより、CO₂ がどのくらい削減できたとか、わかりやすい形で PR するとよいのではないかと。ごみの関係では、バイオ式生ゴミ処理機の補助数がゼロになっているが、その理由を教えてください。

【環境首都推進課職員】

学校へ太陽光発電システムを設置して、その学校の子どもに対しては、PR 効果があるが、その他の市民に対しては、こうした取り組みがなかなか周知されてい

ない。ご意見を参考にして、今後のPR活動に取り組んでいきます。

【ごみ減量推進室長】

バイオ式生ごみ処理機が普及しない理由として、高額であるということと、臭いが気になるということがあげられます。こうしたことから、今年度、補助限度額の増額をしました。臭いのほうも、最新の機種で出にくいものも発売されはじめたようですので、今後、購入者が増えることを期待しています。

【杉浦ひろ子委員】

県の地球温暖化防止推進委員として、ストップ温暖化教室で学校に行っているが、節電・省エネだけでなく、CO₂の削減についても、もっとPRをしてほしい。CO₂排出量を算出するための簡単な計算式みたいなものをPRしたらどうか。豊田市の環境学習センター「エコット」では、CO₂の排出量を分かりやすく示した展示があった。安城市でもできるのではないか。

【環境首都推進課長】

参考とさせていただきます。

(土木課説明)

・環境施策の説明

水田貯留、多自然川づくり、交差点改良工事の実施

【杉山時雄委員】

16ページの多自然川づくりでは、生物の生息空間を創出する形で進めているようだが、写真を見る限り、生き物が住めるような環境ではないと感じるが、工事の工法について詳しく教えてほしい。できる限り生き物に配慮し、もう少し川底に手を入れて、深みを作って欲しい。

【土木課長】

工法のポイントとして、多様な環境を保全・創出するため、堤防の勾配をゆるやかにし、法面を芝生でおおっています。護岸には、ごみの焼却灰から作った溶

融スラグを使用しています。川を蛇行させ、水深や流速の変化を持たせることで、できる限り生物の生息空間となるよう配慮しています。

【神谷輝幸委員】

郷東川の生物の生息状況を教えてほしい。

【土木課長】

多自然川づくりの事業については、主目的としては浸水対策であり、生物の生息状況について、改修前、改修後の調査は行っていません。

【近藤克己副会長】

水田貯留についてですが、農業の多面的機能の一つだと思うが、水田貯留実施の費用対効果について教えてほしい。

【土木課長】

浸水対策の代表的なものとして調整池があるが、1 m³あたりの単価は6万円かかっています。水田貯留については、1 m²あたり千円と積算できます。

(都市計画課説明)

・環境施策の説明

あんくるバスの運行、自転車購入費補助金制度、自転車ネットワーク整備

【片桐徹委員】

18ページのあんくるバスの運行について、平成21年度から3路線増やしており40万人を目指しているということだが、路線を増やせば乗客は増えるものの、1路線あたりの効率は落ちると思うが、その考え方について教えてほしい。路線ごとの燃費などのデータなどがあれば示してほしい。

【都市計画課長】

1便あたりの乗車人数はまだまだ厳しい状況です。便数ごとのデータは整備していません。市民からの不便地域の解消という意見もあり、11月1日からデマ

ンドタクシーを運行します。予約に基づき運行する方式のタクシーをバス路線に導入し、1年間実証実験を行うこととします。このメリットとしては、利用のない時は走らないということです。デマンドタクシーとあんくるバスを組み合わせた全体の交通網について、今後効率を求めて整理しながら進めていきたいと考えています。

【片桐徹委員】

交通網を張り巡らして、利便性を高めることは理解できるが、乗らないことが明白な停留所の停車は省けないのか。データに基づいて修正する仕組みがないとあんくるバス事業は育っていかないのではないか。

【都市計画課長】

バス路線の見直しは、5年ごとに契約を繰り返しているので、その都度路線の見直しを行っていくこととしています。複雑なダイヤ構成にしまうと、市民の混乱を招く恐れがあります。一日の運行にある特殊性について着目した見直しは考えていませんが、意見を参考にしながら、検討していきたいと考えています。

(農務課説明)

・環境施策の説明

アグリライフ支援センター、ふれあい田んぼアートの支援、地産地消の啓発、まちなか産直市の支援

【鳥居保会長】

23ページのふれあい田んぼアートについて、たいへんな取組みだと思いますが、関係している近藤委員にその辺りをお聞きしたい。

【近藤克己副会長】

23ページの写真を見ていただければわかるが、色々な色が必要になる。葉っぱの色や穂の色が違っていたりするので調整が難しい。農家のみなさんをはじめとしたみんなの力の結集だと思う。ぜひ、みなさん見に来てほしい。

(環境保全課説明)

- ・環境施策の説明

浄化槽設置補助金制度、環境保全講習会の開催、事業系一般廃棄物の分別指導、空き缶などの資源ごみの持ち去り防止、油ヶ淵浄化デー、生活排水対策モデル地区事業

(ごみ減量推進室説明)

- ・環境施策の説明

生ごみ処理機器購入補助金制度、リサイクルステーション、地域クリーン推進員制度、アダプトプログラム制度

【永田秀和委員】

リサイクルステーションの回収量が年々増えていることがすごいと思う。常設が大きいと思う。この会議に出る前にエコセンターあんじょうを見てきた。住民からのニーズが高く、もっと場所を増やしてほしいとの声があるとのことだった。市民と協働して資源回収の場所を作っているのはすごいと思う。これから、リサイクルステーションの充実を図り、ごみを減らしていくためには、ひとつは常設であること。いつでも持っていけることが重要である。もう一つは、リサイクルだけをやっている仕組みでは古い。環境学習ができる。次世代の育成が重要である。それから、誰かに使ってもらえるリユースの機能も必要であると思う。あとは、対面方式が重要であり、地域の人と人のつながりが重要であると思う。このあたりが今後のポイントだと思う。

【鳥居保会長】

平成24年度版の環境報告書のポイントについて説明いただき、意見を言っていた。事務局は、この意を汲んでいただき、今後の事業展開に生かして成果があがるようお願いし、議事については了承するという事でよろしいですか。

(了承)

【飯尾歩委員】

安城市だけの話ではないが、基本計画を一生懸命作れば作るほど、それを受け

る人との溝が広くなる気がする。基本計画とは誰が実行するのか。だんだんわからなくなってくる。環境に対して知識のある人はどんどん知識が高まってくる。しかし、18万の市民からは一握りの人である。基本計画を一般の市民に読めといっても読まない。駅前で配っているティッシュと同じである。受身でいいのだろうか。環境首都を標榜する安城だからその先に行かなければいけない。今日の会議でも気になった発言があった。ステークホルダー自身も自己評価が必要ではないか。実行の段階では、別の実行の組織体を作らないといけないのではないか。水田の多面的な機能の効果について、農協から行政に聞くのではなく、農協から行政へデータを提案してほしい。あんくるバスについても、効果とか計画とか数値だとか専門的な話になってきて、行政がバスを運行しなければならなくなったのは何故なのか。100年に1回しか使わないものでも必要なものがある。効率や統計ではすべてを計れない機能もある。目的は、そこに住む人たちの暮らしやすさでしかない。それから、リサイクルステーションの時代は終わったという話もあった。ある仕組みある機能を行政が設置して市民が利用する時代じゃない。市民はただの利用者ではない。運営するのも育てていくのも市民だと思う。インターフェイスである。市民と市民との接点が重要である。伝えたいことを伝えあう。それで一緒に考えようということになる。リサイクルは、市民は出す人で、それをリサイクルの輪に乗せるのは、誰かがやってくれる。リユースは、自分が使っていたものが不用になった。まだ使えるけど使ってほしいというメッセージが込められている。だからより大きな効果がある。費用に現れない手間隙に現れない効果がある。基本計画を作ってそれで終わりじゃない。報告書を受けるまでのインターバルをどう使っていくか。それを常時考えていけるような仕組みを、もっと広く市民に聞けるような仕組みが必要だと思う。これで承認して終わりじゃないのではないかな。

【新井副市長】

長時間にわたり、真剣にお考えいただき、発言をいただきありがとうございます。飯尾委員から、刺激になる、我々にとって考えさせられるお話をいただきました。それだけでも今日の会議が価値のあるものになったのではないのでしょうか。一人ひとりが今の意見をかみ締めて、我々に対する意見につなげていただければと思います。我々もみなさんからの意見をいただき、行政に反映することは

もちろんですが、意見をいただいて行政だけが何かをするのではなく、フェイス
トゥフェイス、一対一でやっていくというまちづくりが大事だと思います。常々
職員には、市内に出て行け、色々なイベントに出て行けと言っています。そうし
たなかで市民の考えが分かるし、仕事に生かせるのではないかと言っています。
今後も色々な場面に職員を参加させるようにしますのでよろしくお願いします。